

財 政 通 信 No.20

ご挨拶が遅れました。5月に着任しました新財政課長です。<(_ _)>

財政課は5月の組織機構改革で営繕業務が追加となり、営繕業務のベテラン・中堅の職員が2名配置され、そのほか人事異動で3名ほど顔ぶれが変わりましたが、引き続きよろしく願います。

さて、「節電の夏」とはいえ、太陽は容赦なく…。皆さん、いかがお過ごしですか。未だ避難所生活を強いられている被災者を思い、私たちもできることから協力しましょう。でも健康管理にはくれぐれも注意してください。

私ですか？こう見えても、若いころは「グラウンドを駆ける黒豹」と呼ばれた(?)体育会系、体は丈夫ですから、毎日汗をかいては、ビールを美味しく頂いています。(^^)v

ところで、東日本大震災関連の初動対応業務は、初めてのことばかりで、バタバタの連続、皆さん大変ご苦労さまでした。今後は、次のステップ「本復旧」にむけて頑張ってください。

財政課では、震災以降、被災者支援や災害復旧のため6月までに5度の補正予算を調製し、次に平成22年度の出納を閉めたら、決算分析(地方財政状況調査と健全化判断比率等の算定)で、いつの間にか7月半ば。普通交付税の本算定・ヒアリング。それが終わると9月の議会に提出する補正予算の調製…世間ではお盆休みといいますが、それもまなりません。先々代の財政課長が「財政課の正月(余裕がある)は10月だからよ。」と言っていたのを思い出し、秋が待ち遠しい今日この頃です。(涼くなるし)

さて、そろそろ本題に入ります。今回のお題は、平成22年度の普通会計決算から見える財政状況なんぞを一席。先日の「決算状況説明会」にも業務多忙にもかかわらず、多くの職員に出席していただきましたが、新たな気持ちで、今一度お付き合いねがいます。(平成22年度龍ヶ崎市決算の概要も一緒にご覧ください。)

えっ！あんまり興味ないし、今更聞きたくない？そんなこと言わないで、自分の市の財政状況を知らないなんて…市民からみたら「自分の勤務する会社(市)の業績(財政状況)も知らないの??」となりますよ。もちろん、詳しいことは財政課にお任せください。皆さんは、市民の質問に、概要程度は答えられるようよろしくお願いします。

1 平成22年度決算概況(普通会計)

会社経営では、資金繰り・資金手当てが重要な仕事の一つです。自治体経営においても同様ですが、その資金繰りの状態を表すものが収支状況です。

さて、平成22年度の収支状況は…。

(出納閉鎖が迫る5月中旬のとある日)

G員:係長、さっきから補佐は何をブツブツ言ってるんですか？震災がどうのって。

係長:ほら、平成22年度の3月議会に被災者対策や応急復旧のための補正予算を急遽提出して、その財源には最後まで財源留保していた特別交付税約2億円を投入したろう。

G員: あっ, そうですね。その前までは「今年はいける」とか言って, かなりご機嫌でしたよね。6億円積み立て楽勝(^)vとか言っちゃって・・・

係長: なんか, すごい皮算用してたからな, ちょっとショックなんだろう。さて, 現実に戻してやるか。補佐~, 財政調整基金の積み立てOKですよ。6億円いけますよ。

補佐: えっ, いける? 形式収支(歳入歳出差引額)どれ位でそう?

係長: 7億円は確保できます。ただし, 震災関連で繰越事業が多くて, 実質収支(形式収支から繰越すべき財源を除いたもの)は5億円台でしょうけど。

補佐: う~む。それでも去年よりかなり良いな。課長, 今後のためにも積みましょう。

課長: よし, 至急手続きをたのむ。しかし, 前課長からの引継ぎでは, そこまでの改善は見えなかったが, 主な要因をおしえてくれ。

係長: おっと, 結構慎重派ですね。

課長: まあ, そう言うなよ。23年度の財政運営は, まだまだ前途多難, 天気晴朗なれど波高した。

平成22年度決算は, 収支状況, 経常収支比率, 財政健全化法による財政状況(もちろん「健全段階」の判定です。)すべてに改善が見られます。本市の財政状況は, V字回復, 安定飛行に入ったのでしょうか?

(決算統計作業が終了した6月下旬の週末)

課長: 実質単年度収支が6億8,700万円の黒字。億円単位の黒字は久々だね。

補佐: 平成15年度(2億2,700万円)以来ですかね。昨年度の黒字幅はわずか(280万円)でしたから, 大きな改善といえますね。

課長: 財政健全化の取組みが実を結んできたのかな。

係長: 職員削減等に伴う人件費や, 物件費(需用費や委託料など)の削減効果は大きいですね。人件費は人事院勧告による期末勤勉手当の支給率引き下げもありましたし。

補佐: 個人的には厳しかったけど, 財政的には収支改善のプラス要因だな。しかし, これまでは行政内部経費の削減努力が大きな財源確保につながってきたが, これには限界があるよな。

係長: それに, 行政内部経費の削減効果が, 社会保障費などの増額で相殺されてしまうという状況が続いているんです。例えば, 平成22年度も, 職員の期末勤勉手当の減額分は, 生活保護費など扶助費(社会保障費)の増額などで軽く吹き飛びましたからね。財政健全化に取り組んでなければ, 今頃, 恐ろしい状況になったと思いますよ。

課長: 財政健全化の取組みも平成22年度で10年か。この間, 国の制度改革(三位一体の改革など)に耐え, 公共サービスを提供しながら, 長期債務も減らしてきたんだから, 見たい(収支改善)以上の効果があったと思うし, 補佐の言うようにそろそろ新たな手法も考えないといけない時期かもしれないが・・・。

係長: やっぱ, 安定的な自主財源の確保が永遠のテーマですかね。

課長: 究極は潤沢な市税収入だけれども, 大企業が立地するとか, ある市民が突如, 大富豪になるとかでもない限り, 一気に増収することはない。企業立地は可能性があるから, 企業誘致などの施策も必要だが, 当面は, 自主財源でも依存財源でもかき集めながら, 財政運営するしかないな。

係長：地道に住宅ローンを払いながら、一発逆転を夢見て宝くじを買っているような、まさに課長の人生ですね。

課長：大きなお世話だ。(何で知っているんだ、コイツは?)ところで、市税収入は大きく減収(△2億8,700万円, △2.8%)だけど、歳入面の特徴は?

係長：市税収入は残念ながら減収です。法人市民税が回復しましたが、個人が落ち込みました。個人市民税はリーマンショック以降の雇用情勢等の影響や、団塊の世代の大量退職の影響が考えられますね。その反面、本来、地方の財源保証制度である地方交付税は5億7,600万円, 20%の増収です。

課長：地方交付税の増収分が、市税収入の減収分を大きく上回り、収支が改善したわけか。

補佐：そうですね、さらには、地方の財源不足拡大に伴い、地方交付税の代替財源である臨時財政対策債が増発されたこともあり、地方交付税に臨時財政対策債を加えた「実質的な地方交付税」でみると、前年度に対して、約11億円の増収ですね。これが収支改善の最大の要因です。これは、ほとんどの市町村が同じ状況ですね。

課長：つまり、実質的な交付税総額の復元(三位一体の改革で削減された地方交付税の復元は地方が強く要望していたことです。)などにより財源を確保した。一方で歳出は、これまでの取組みなどにより削減効果が現れたということか。

補佐：国民健康保険事業の療養給付費が昨年ほどの伸びを見せなかったことも一因ですね。

課長：地方交付税などの依存財源と、市では歳出がコントロールできない療養給付費か…。

係長：市税収入が伸びて、経常的な歳出も大きく減った結果の収支改善なら、「V字回復」と言えるんですが…。

補佐：そうとはいえ、平成22年度は、さっき課長が言ったとおり、財源をかき集めて、財政調整基金に6億円積めたじゃないか。これは後年度、自主財源として活用できるよ。

課長：平成22年度については、自律的・本格的な回復とは言えないまでも、結果が良ければということか。

しかし、平成23年度当初予算における財源不足や、東日本大震災への対応で、平成22年度の財政調整基金積立金のほとんどを、早くも平成23年度予算で繰り入れた(預金解約)状況だ。一日も早くイーブン(基金繰り入れなし)にしたいな。

補佐：最低でも、第3次財政健全化プランの目標値はクリアしたいですね。

課長：歳入・歳出とも、東日本大震災の影響がどこまで及ぶか未知数だが、一步、一步前進するしかないな。

2 健全化判断比率など

国の「地方配慮」により実質的な地方交付税が復元されましたが、地方財政の疲弊は全国共通の問題で、大半の団体は厳しい財政状況に直面しています。そうした中で、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」(財政健全化法)による健全化判断比率などは…

(健全化判断比率の算定が終わりつつある7月中旬)

G員：市の借金残高が多いって聞いてたんですけど、健全化判断比率はクリアしているし、昨年度より改善もしているじゃないですか、なぜですか?(財政は初めてなもので…)

係長：ニュータウン開発や佐貫駅前開発などのインフラ整備，清掃工場建設や総合運動公園建設の財源を調達するために起債したからね。近隣団体や同規模団体と単純に比べると多いと言えるね。

G員：30年の住宅ローンを借りて念願のマイホームを手に入れて，今，返済していますってところですか。

係長：そうだね，ところで，地方公共団体の破綻防止のために早期健全化を法律で義務付けていて，健全化判断比率はその基準になるって，この前説明したよね。

G員：健全化判断比率の根拠である地方公共団体の財政の健全化に関する法律，通称「財政健全化法」のことですよ。

係長：そうそう，法律による早期健全化基準(破綻防止)や財政再生基準は，「自治体の財政破綻」を念頭においたイエローカードやレッドカードだから，これは当然クリアしないといけないし，財政健全化に取り組んでいるのだから，少しでも改善しないと。

(平成22年度龍ヶ崎市決算の概要P4参照)

G員：市債の返済期間は20～30年の長期ですから，急には減らないですよ。

係長：でも，龍ヶ崎市の大型建設事業は終了したから，新規の市債(建設地方債)の借入れは，かなり押さえ込むことができる。つまり，市債残高は，着実に減少する方向にある。

G員：すると，あとは施設の老朽化や市債償還(借金返済)などのバランスに注意しながら，管理・更新していけばいいんですね。

課長：気掛かりもある。地方財源不足の拡大に加え，国税収入不足などのため，地方交付税の代替財源である「臨時財政対策債」の増発で対応せざるを得ない状況にあって，平成22年度はついに15億円を突破している。このため，「建設地方債」の借入れを減らしても，市債全体の残高はあまり減らなくなってきたからな。

そうかと言って，臨時財政対策債を発行しないと，財源不足に対応できないしなあ。

補佐：そうですね，臨時財政対策債の償還財源は地方交付税で措置されるとはいえ，その残高は急増していますからね。将来負担が心配ですよ。それに，過度の建設事業の抑制は，公共施設の老朽度が増すことにもなるから，減らせば良いということでもないですからね。

ところで，〇〇さん。市債の活用は，「借金」という面ばかりに注目が集まるけど，見方を変えると，龍ヶ崎市は借金と引き換えに，新たな資産を形成してきたということだ。今月から財務諸表の作成が始まるから，特にバランスシートを作ってみると良くわかるよ。

G員：なるほど，わかりました。(一度に言わないでよ～(ToT)最初のころの話，忘れそう。)

補佐：あれは，市の資産と負債の関係で，・・・

ブチッ(何かが切れた・・・)

G員：今度にして下さい(怒)

※ 皆さんにも，財務諸表の作成終了後お知らせします。m(_)_m

平成23年度の行財政運営のポイントは，公共の担い手・役割分担の再構築を進め，さらには，財源の安定的な確保・・・といろいろ考えていました。しかし3月11日を境に状況が変わり，災害対策・放射線対策などが最優先事項になりまして・・・。

(9月補正予算を調製が始まった7月下旬)

G員:震災対策経費はまだまだ嵩みますかね?すでに総額で9億円に迫っていますね。

係長:そうだな、これまでの補正予算で緊急的なものは措置してあるが、本復旧についてはまだ調査や設計が終わってないものもあるからな。

補佐:本復旧経費も9月の補正予算で一部を除き概ね完了のはずだが、やっぱり原発だな。放射線対策や農作物の風評被害対策などは長期戦になるよな。

課長:それに岩手、宮城、福島から茨城県に対して、災害救助法に基づく応援要請がなされているから、龍ヶ崎市でも被災者の受け入れなど、出来得るかぎりお手伝いをしないとイケないな。

G員:課長! 僕も頑張ります。積極的にやりましょう。

課長:もちろんだ。緊急的な要請にも対応できるよう弾力的に行こう。それは別として、喫緊の課題は我がまち、我が市民の生活だ。本復旧を1日も早く完了させようじゃないか。

G員:それで、僕は何をしたらいいんでしょうか?

係長:とりあえず、昨日頼んだ集計はどうなってんだ?報告締め切りは明日だぞ。

G員:すいません。もう少しです。今日中に必ず仕上げます。

課長:そうそう、まずは、与えられた仕事を確実に期限内にこなす。そして、常に、突発的、緊急的の案件に対応できる体制を維持するのが理想だな。みんな忙しいのは分かっているけどな。

補佐:全員が力を合わせれば、不可能ではないと思いますよ。通常勤務時間内の頑張りならば残業代も出ないし。

課長:そうだな、自由な発想や創意工夫もタダだな、そして労働密度を向上してと・・・。

係長:(大きな効果を得るためには一定の投資も必要だと思うけどなあ。金を出さずに、考え、働けってか。この人達、根っからのケチだ!)

お付き合いありがとうございました。この「財政通信」と「平成22年度龍ヶ崎市決算の概要」(財政状況説明会資料)、さらには今後お知らせする「決算から見える龍ヶ崎市の財政状況」の3点セット、これであなたも「財政通」。ぜひご覧ください。(作成がけっこう大変なんです、よろしく願います。)

では、また次回(^_^)/~